

役員の被災地視察 状況報告

■10/2-3 理事監事視察（石川県）

参加者：椿原理事・花田理事・吉川理事・岩本理事・山中理事・中木監事

主な内容：炊き出しボランティア



■10/5-7 ボランティアバス（石川県）

参加者：久保専務理事・職員4名

主な内容：もとやスーパー泥だし

<参照> 能登半島地震後も営業続けた「もとやスーパー」 2メートル浸水でやむなく休業も社長「再起を図りたい」：北陸中日新聞 Web (chunichi.co.jp)



■10/8-9 福島県視察研修

参加者：勝山理事長・椿原理事・職員2名

主な内容：福島第一原発視察



■10/2-10/3 大阪府連主催 理事監事石川県ボランティア

参加者：椿原理事・花田理事・吉川理事・岩本理事・山中理事・中木監事

○被災地の状況

輪島に近づくと道が悪路になり、山の斜面が崩れて片側通行になっていました。更に奥へ進むと先日の豪雨の被害が顕著になって、川には土砂崩れの木や土や枝が流されていました。川も道路も泥で一面が茶色になっていました。

田んぼには収穫まであと少しだったであろう稲が泥まみれで倒れていて、やるせない気持ちになりました。途中の河川では、たくさんの消防隊の人々がおられ、行方不明者を捜索されているようでした。



○炊き出し内容

2日間とも、仮設住宅での炊き出し支援を中心に行いました。

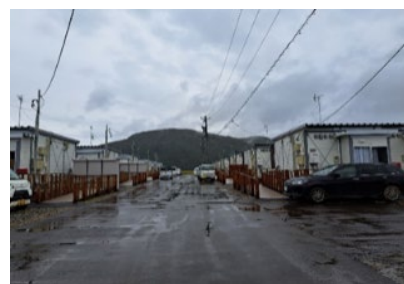
炊き出し1日目は、和泉食品工場でカットした野菜や豚肉と備品・水などを、ならコープの職員が9時間かけてトラックで現地まで運びこみ、NPO 法人リエラの調理器具をお借りし、焼きそばを400食準備しました。

炊き出し2日目は、とやま生協の職員が用意してくれた炊き込みご飯と調理済みのおかず、ウィンナーを焼いて盛り付けたお弁当を約400食準備しました。COOPのビブスを付け、生協間の垣根をこえた活動の強みと横つなぎをしてくれている大阪府連の力を感しました。



○被災地で暮らす方々の様子

炊き出しは、輪島市町野町小学校の横に作られている仮設住宅のひろばで行いました。炊き出し中、隣の町に越境通学している仮設住宅に住む子供たちが元気に帰ってきた姿を見てうれしくなりました。2日間ともあいにくの雨の中での炊き出しでしたが、雨が降る中、鳥に來られた方に焼きそばを渡すと、あったかーいと笑顔になったお顔が忘れられません。全員がこの人たちのために頑張ろうと思う事ができました。作っているところまで来て、「大阪からわざわざ来てくれて、ありがとう。」と感謝の言葉を伝えてくださる方もおられました。また別の方は「お父さんが地震でつぶれたハウスをやり直すと頑張っていたのに今回の豪雨でまたつぶれた。またやると言うけど…」と困った顔で話をしてくれました。一度だけでなく二度も被害を受け、疲れている様子が伝わってきました。



○ボランティアに参加して

能登の方に元気になって貰おう、の気持ちで今回のボランティアに向かいましたが、逆に私の方が元気を貰えました。報道されているものでは感じる事の出来ない痛みを知り、私たちにできることを考えていかなければと強く思いました。テレビのような平面で観る能登の状況ではわからない、その場に立ちそこに住む方の悲しみに少しでも寄り添い・応援ができるよう、長く能登に心を寄せていきたいと思えます。



■10/14頃のもとやスーパーの状況

ここまできれいになっています。

